

第1章

都市づくりの目標

1. 現状の整理

南魚沼市における、まちづくりに関する現状を以下のとおり整理しました。

【概況】

- ・県都新潟市と首都圏の中間地点に位置し、上越市方面とも連絡する。
- ・東西の山岳と丘陵地に挟まれた南北に長い平野部に、市街地や集落が分布する。

【人口に関する現状】

- ・人口減少と少子高齢化が進む。(H22現在、人口は61,624人、65歳以上人口比率は26.1%)
- ・用途地域(市街地)内の人口は全市の3割程度で人口も減少傾向。(用途地域人口はH25で17,573人)
- ・近隣の魚沼市、湯沢町、十日町市との間で通勤通学、買い物などのつながりが強い。

【土地利用に関する現状】

- ・現在の用途地域内に農地が150ha程度残存する。
- ・用途地域を取り囲むように農地が広く分布し、森林地域が市域の東西に分布する。
- ・宅地面積が増加する一方、農地面積(経営耕地面積)が減少している。
- ・住宅総数21,890件中、約14%の3,050件が空き家となっている。(H25住宅・土地統計調査より)

【交通体系に関する現状】

- ・3か所のインターチェンジ(以降、「IC」という)を有するなど高速交通環境に恵まれ、上越魚沼地域振興快速道路(以降、「上沼道」という)の整備が進められている。
- ・国道17号浦佐バイパス、六日町バイパスの整備が進められている。
- ・既存の公共交通機関のほか、市民バスが運行しており、各集落と駅や公共施設を結んでいる。

【都市施設に関する現状】

- ・魚沼基幹病院が平成27年6月に開院し、魚沼圏域の医療拠点(三次医療)として位置づけられる。
- ・市内の都市計画道路48路線中16路線が未整備である。(H26現在の完成率は49.6%)
- ・大原運動公園をはじめとした大規模な公園を複数有するが、身近な公園や遊歩道整備の要望もある。
- ・下水道普及率は平成27年現在97.9%と高いが、そのうち水洗化率は86%となっている。

【環境・景観に関する現状】

- ・自然が豊かであり、地形を活かした登山やスキー場(全10か所)等のレジャーが盛んである。
- ・田園や越後三山などの山々、魚野川などの清流、豊かな自然環境が南魚沼市の特徴となっている。(魚沼連峰県立自然公園などの自然公園地域が市域の約3割に相当する16,692ha)
- ・坂戸城跡や吉祥山普光寺(毘沙門堂)、雲洞庵などの歴史資源が分布する。

【防災に関する現状】

- ・市域全域が特別豪雪地帯に指定されており、積雪が多い。(最高積雪深は多い年で3mを超える)
- ・消雪用地下水の大量揚水が原因の地盤沈下による影響が一部地域で見られる。
- ・土砂災害警戒区域が山間地集落部を中心に539か所(H27.9現在)指定され、災害のリスクが高い。
- ・六日町市街地や浦佐市街地において豪雨に伴う浸水被害が発生している。
- ・市街地中心部には狭隘道路と木造建物密集地が存在する。

【その他現状】

- ・人口減少・少子高齢化による税収の減少や、社会保障負担の増大が予想されている。
- ・メディカルタウン構想、CCRC構想などが進められている。

2. これからの都市づくりに向けた主要課題

南魚沼市の現状等を踏まえて、今後の都市づくりにあたっての主要課題を以下のとおり設定します。

課題1 今後の社会構造の変化に対応した持続可能な都市づくり

本市では、市街地内で人口が減少し空洞化する一方で、一部区域では市街地外縁部での宅地化がみられます。低密度な市街地の拡大は、行政サービスや公共施設等の維持管理などの費用増を招き、現状の厳しい財政をさらに悪化させることとなります。

本市が持続可能な都市として次世代に引き継ぐためには、今後の人口規模や構造に対応した適正な市街地規模や機能配置による効率的な都市づくりが求められます。

課題2 広域連携と地域内連携による活力のある都市づくり

本市は県都新潟市と首都圏の中間に位置し、十日町市や上越市方面とのアクセスも可能な地理的条件に加え、高速道路や新幹線などの広域交通環境にも恵まれています。また、市内には特徴ある複数の市街地が分布し、魚沼基幹病院や大規模商業施設などの広域的に利用される都市機能も集積します。

今後は魚沼圏域の拠点としてさらに周辺都市とのつながりを強めるため、広域間での一層の移動性の向上を図るとともに、市域内での効果的な機能分担と移動手段の整備などにより、生活利便性の向上を図る必要があります。

課題3 安心・安全に暮らせる都市づくり

近年の東日本大震災や全国各地で発生する大規模な土砂災害などにより、私たちの防災意識は高まっています。本市は日本有数の豪雪地帯であるとともに、山間地集落部などにも多くの土砂災害警戒区域が分布していることから、自然災害への対応が求められています。また、都市内においては、建物密集地区の安全対策や市街地内での浸水対策など、安心・安全に暮らせる都市づくりが必要です。

課題4 自然・歴史・文化を活かした都市づくり

市内には多くの入込みのあるスキー場や牧之通り・雲洞庵などの観光資源が多く分布しています。また、近年では住民の自然環境や景観に対する意識が高く、越後三山や魚沼丘陵の山並み、魚野川をはじめとする河川、日本一のコメと評価されている南魚沼産コシヒカリを生産する農地などの自然的資源の重要性が認識されています。

今後は、豊富な自然・景観資源や歴史的資源を保全しながら、重要な交流資源として有効に活用する必要があります。

課題5 協働のまちづくり

厳しい財政状況の中、住民が行政に求めるサービスは多様化・複雑化しています。

本市ではメディカルタウン構想、CCRC構想が本格化する中で、今後は元気な高齢者がまちづくりに貢献できる環境づくりを行い、全ての市民が参加できる、住民と行政による協働のまちづくりが必要となります。

3. 将来都市像

将来都市像（総合計画で設定）

自然・人・産業の和で築く 安心のまち

4. 都市づくりの基本目標

目標1 安心して住みつけられる都市構造の形成

- ・市街地中心部への都市機能の集約を目指し、魅力を高め求心力の向上を図ります。
- ・将来の人口規模に応じたコンパクトな市街地の形成を図ります。
- ・農村集落での生活環境の維持のために基幹的な集落の生活利便性の向上を図ります（小さな拠点）。
- ・市街地周辺の優良農地は貴重な自然資源として保全します。

目標2 交通体系の強化による地域連携の促進

- ・市域外とアクセスする交通体系の整備により、広域連携の推進と多様な交流の促進を図ります。
- ・市域内のアクセス向上により、市街地間の機能分担や各拠点との連携強化を図り、効率的で利便性の高い都市を形成します。
- ・公共交通など移動手段の充実を図り、高齢者を含む全市民が市内各地へアクセスしやすい快適な生活環境を支援します。

目標3 安心・安全な都市の形成

- ・災害や豪雪時にも安全に走行できる災害に強い道路ネットワークの整備を図ります。
- ・土砂災害や浸水のおそれのある区域内での宅地化の抑制や、安全対策を図ります。
- ・建物密集市街地の再整備などにより防災性の向上を図ります。
- ・高齢者や障がい者にもやさしいバリアフリーのまちづくりを目指します。

目標4 自然環境や景観と調和した歴史・文化を感じる都市の形成

- ・山林、水辺、農地などの豊かな景観や自然資源の保全とともに、四季を通じて楽しめる交流の場としての活用を図ります。
- ・本市独自の歴史や文化を感じる景観等の資源を保全するとともに、観光資源としての活用を図ります。

目標5 民間と行政の多様な協働によるまちづくり

- ・住民・企業・行政の役割分担により、都市サービスの質の向上や効率的な行政運営を図ります。
- ・年代や居住地などにかかわらず、誰もが参加できるまちづくりを目指します。

5. 都市構造

将来都市像や都市づくりの基本目標を実現するため、土地利用や交通の骨格などの空間的特徴を概念的に表し、目指すべき都市の形を分かりやすく示します。

■ ゾーン

①都市活動ゾーン

主に都市的な土地利用がなされ、日常生活を送る上での拠点となる市街地は、今後の人口規模を考慮した適正な規模とし、店舗や金融、公共施設などの都市施設を中心部に集め、便利な土地利用を図ります。



中心市街地の賑わい

②農業生産ゾーン

市街地周辺に広がり、本市の基幹産業である農業を支える農地及び集落地は、今後とも食料生産基地として、また防災や景観保全の観点からも維持保全を図ります。



農業集落

③自然保全ゾーン

本市域の大部分を占める山林地域は、美しい山岳景観、水源涵養やCO₂の吸収といった自然環境維持の観点から保全を図り、またスキー場や登山など、その地形を活用したレクリエーションの場としての活用も図ります。

■ 拠点

居住拠点

①都市拠点

南魚沼市の中心となる都市拠点として市役所のある六日町市街地中心部と浦佐及び塩沢の各市街地中心部を位置づけます。各拠点の特徴に合わせて商業や工業、教育、医療、文化、観光交流、行政などの機能充実と各都市拠点間の連携強化により、便利で賑わいのある市街地の形成を図ります。

②地域拠点

都市拠点を補完する地域住民の生活の拠点として、五日町地区、石打地区周辺を位置づけます。鉄道駅を有するほか、店舗や飲食店、金融などの立地により、日常生活の利便性の確保を図ります。また、都市拠点との連携により、暮らしやすい拠点の形成を図ります。

③集落拠点

農村集落での生活の拠点として、地区の中心部を集落拠点として位置づけます。都市拠点や地域拠点との連携を図り、小学校や保育園、医療施設、郵便局など基礎的な生活施設の立地により、周辺の農業集落の生活維持に必要な機能の確保を図ります。

交流拠点

④交通拠点

市内の主要な鉄道駅や高速道路のICを交通拠点として位置づけます。広域交流の拠点であり上越新幹線の停車駅であるJR浦佐駅及びほくほく線の起点である六日町駅周辺では、広域からの来訪を受け入れる賑わいの創出を図ります。

⑤医療拠点

平成27年に新たに開院した魚沼基幹病院周辺及び市民病院周辺を広域的な都市構造に影響のある医療拠点として位置づけます。周辺道路の機能強化を図るとともに、公共交通の連携や強化により利便性を高め、特に魚沼基幹病院周辺については、魚沼圏域全体の第三次医療機関としての拠点形成を図ります。



魚沼基幹病院

⑥学術交流拠点

国際大学、北里大学保健衛生専門学院、県立国際情報高校が立地する一帯を学術交流拠点に位置づけます。各機関の学術連携とともに地域との交流を促進し、若者と高齢者の交流など、多様な人が交流する活力のある拠点の形成を図ります。



国際大学

⑦観光交流拠点

毎年多くの観光客が訪れるスキー場や観光地（年間10万人以上の入込みのある観光地周辺）を観光交流拠点として位置づけます。交通拠点とのアクセスや他の観光交流拠点との連携により魅力を高め、市外から多くの人が訪れる賑わいの拠点形成を図ります。

■ 軸

①広域連携軸（関越自動車道、上沼道、国道17号、上越新幹線、JR上越線、ほくほく線）

県都新潟市・長岡市方面と首都圏をつなぐ上越新幹線や関越自動車道の連絡方向である南北軸を広域連携軸として位置づけます。また、本市から西側の十日町市・上越市方面へ延びるほくほく線や上沼道の連絡方向についても広域連携軸に位置づけます。広域的な観光や本市の産業、広域連携を支える重要な軸として、整備充実を図ります。

②地域連携軸

（国道291号、国道253号、国道353号、県道など）

近隣都市や市内の拠点間を結ぶ道路を地域連携軸として位置づけます。市民の日常生活や経済を支える軸として、整備充実を図ります。



国道17号六日町バイパス

都市構造図

